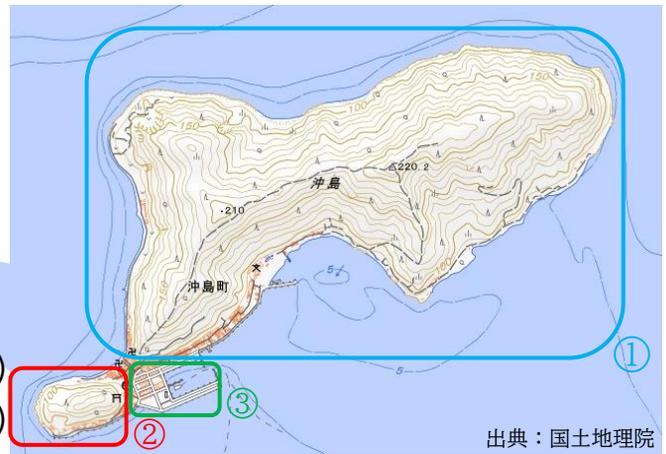


沖島のひみつ



出典：国土地理院



○沖島（近江八幡市）

面積：約1.5km²

島の周囲：約6.8km

尾山（おやま）：標高220m（地図①）

頭山（かしらやま）：標高141m（地図②）



島の周囲の約6.8kmというと、1時間半～2時間で歩ける距離だね！



沖島にあるマンホール

沖島に行くためには、1日12便の船が出ているよ！
沖島漁港と対岸にある堀切港を往復しているんだね！
ほかにはどんなひみつがあるのかな？



沖島には、たくさんの三輪自転車が停められています。サドルには、雨に濡れないようにお菓子の缶が置かれています。沖島では「ガンガン」と呼ばれ、島中の三輪自転車に置かれています。



沖島唯一の電気自動車です。デイサービスを利用する方が使われています。細い道でも通ることができて便利だそうです。



昔、沖島小学校があった場所には展望台があります。沖島から見るびわ湖は絶景で、晴れていると対岸の伊崎半島から長命寺山、堀切港まで見渡せます。

○人々の生活を支える沖島漁港（地図③）



沖島は、びわ湖の漁獲水揚げ量の半分を担うほどの漁師の島なんだ！また、水産庁選定の未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選に選ばれた「ホンミチ」もあるんだよ！



立ち並ぶ家屋と家屋の間にある幅1mの細い路地。「ホンミチ」と呼ばれる生活道路。

漁業会館には、水揚げされた湖魚を保存する大きな冷蔵庫があったり、湖島婦貴（ことぶき）の会という漁業協同組合の女性部の方がお弁当やアイスを販売されたりしているそうだよ！



「よそのココロケ」という名前は、外来魚であるブラックバスを主原料としていることから名づけられました。この取り組みは、ブラックバスの駆除と資源の有効活用を目的としており、「第5回企業&NPO協働アイデアコンテスト」で最優秀賞を受賞しています。



「漁村の碑」

沖島漁港にある「漁村の碑」です。沖島の人々は、古くから漁業を中心に生活されており、先人の苦勞に感謝し、魚貝の供養のために、毎年秋に法要が行われています。



沖島漁港の様子

沖島小の児童が考えたパッケージ